

第 48 回 北海道士を考える会を開催しました。

2025年7月23日

北海道士を考える会は、7月10日に北海道上富良野町 土の館にて総会・研修会を開催しました。

北川会長の挨拶に始まり、前会長の田村さんによる進行で総会が執り行われました。

研修会では始めに、農研機構 スマート農業プロジェクトチームの4名の方から、緑肥に関する情報提供をいただきました。

唐澤敏彦先生からは【緑肥のメリットと活用のポイント】、森伸介先生からは【緑肥の細断・すき込み作業の高速化へ】、夜船友咲先生からは【緑肥の空撮画像から圃場の地力むらは推定可能か?】、矢口直輝先生からは【ドローンセンシングによるソルガムの窒素吸収量の推定と施肥マップ作成への取り組み】といったテーマで、複数の角度から緑肥についてのお話をいただきました。



前島先生 (左) と谷教授 (右)

次に、農研機構 農業環境研究部門の前島先生と帯広畜産大学の谷教授による【土壌断面から空気と水の動きを観る-SEASON2】の研修がありました。SEASON1では、サブソイラ・ハーフソイラ・ブラソイラを施工した後の緑肥の根の張り方を比較し、ホワイト農場においてはサブソイラが最も根張りがよく、まんべんなく土が柔らかくなるといった結果となりました。そこで今回の研修では、【サブソイラの破碎効果は、作業速度の違いで変わるのか】を検証しました。事前に、1.6km/h、2.3km/h、3.5km/hの速度でサブソイラを曳いた後、無施行区を含めた4箇所に緑肥を播種し、約1mまで生育しました。この日は、根張り具合・土の硬度・坪判りをした緑肥の重量を比較しました。結果重量は、作業速度の速い方から1.65kg、2kg、

2.85kgでした。また根の張り方や硬度においても、違いが確認できました。谷教授からは、「作業速度によって違いが出ると分かったことが重要であり、土質によっても結果が異なるため、どの速度が良いという正解はない。各々の土質や作業効率に鑑みて、現場の条件に応じた適切な作業速度を見極めることが重要」というお話をいただきました。前島先生からは、2.3km/hと無施工区の断面から作成したモノリスの解説があり、みんなで観察をしました。



無施工 (左) と 2.3km/h (右) のモノリス



3.5km/hの土壌断面と坪判りした緑肥

最後に、スガノ農機《新製品》実演会では、スプリングハロー、フロントケンブリッジローラー、ローラーサブソイラの3機種の新製品のお披露目がありました。また、プラウによる緑肥鋤き込み性能を比較するため、緑肥をサイドカッターで細断した場所と、高さ約1mの緑肥をそのままにした場所を作り、美瑛町の波状丘陵地向けに完成した特注尾形プラウと、浅耕プラウで鋤き込み、観察しました。引き続き、腐食の進行なども比較するため、10月頃再度観察する予定となっています。

研修会後はBBQをしながら情報交換会があり、大いに盛り上がる研修会となりました。



フロントケンブリッジローラー



ローラーサブソイラ



スプリングハロー



尾形プラウによる緑肥すき込み

